

令和5年度一般会計予算について審議した結果、賛成多数により原案を可決しました。審議の中で、賛成討論と反対討論が行われたので、討論の内容を以下のとおり討論を行った順に掲載します。

## 反対討論（渡辺 佳正 議員）

反対する理由は1点、(仮称)郷土史博物館基本構想について通常の文化振興費予算になっていることです。令和6年度に基本計画策定とあり、5年度は通常の文化振興事業だけでは、幅広い市民の理解を得ることは到底できません。継続性という観点から5年度予算で(仮称)郷土史博物館事業の予算を組まないことは空白の1年となります。5年度予算審査に対する議会の議論を封じ、選挙の争点から隠すためだと判断せざるを得ません。

## 賛成討論（細沢 覚 議員）

財源不足が生じないよう、歳入では臨時財政対策債の減額分を普通交付税の増額分とし、振替えを手堅く算出しています。歳出では、重層的支援体制整備事業の準備に向けた予算は、限られた福祉財源を有効活用するための計画に必要な人材育成であると考えます。出産・子育て応援事業を予算化している点も重要な予算編成であります。外神スポーツ広場夜間照明工事により平日の夜間利用が可能になります。以上のことから賛成とします。

## 反対討論（近藤 千鶴 議員）

コロナワクチン接種事業の5～11歳小児ワクチンに反対です。全国で小児接種率は1回目24%、2回目23%、3回目はわずか9%で、殆どの保護者が子どもに打たない選択をしている中、国が推奨することに疑問です。また、(仮称)郷土史博物館基本構想で代表質問の答弁は「市民の理解はいただいている」とのことでしたが、市民への周知はできていないと思います。市民へ博物館のことを理解してもらうための努力が見えない予算に反対です。

## 反対討論（深澤 竜介 議員）

選挙対策の論点つぶしで、(仮称)郷土史博物館事業について予算計上されていません。議論から除外されています。こうした動きに翻弄される職員には閉塞感があり、その結果、定年退職者以外の退職者の増加につながっていると考えます。この手法が子どもたちに与える影響はいかがでしょうか。大人の世界を生きていくにはこうした手法が必要だと説明するのでしょうか。予算計上して議論の俎上に載せるべきです。正々堂々と行くべきです。

## 賛成討論（植松 健一 議員）

本予算を総括すると、厳しい社会情勢の中でも市民が安心して心豊かに生活し、持続可能社会に向けて前進していくためのものであると感じます。財政上では持続可能な運営を強く意識しており、将来負担を増やさない健全な運営の確立を目指すものであり大変安心感があります。各種基金も確実な積立が行われ、今後の財政需要に柔軟に対応するための基盤の強化も図られ不安のないものとなっており、執行するに十分値するものであります。

計5人の議員が討論を行いました。採決の結果、**賛成多数で原案を可決しました。**

**その後**、可決された令和5年度富士宮市一般会計予算に対して、小松議員、佐野和彦議員、望月則男議員、臼井議員、船山議員から、附帯決議案(※1)が提出されました。附帯決議案の内容を抜粋して掲載します。

1. (仮称)郷土史博物館構想について、あらゆる考えの市民に対し、事業の意義を理解してもらうための説明会を行うべきである。市民が正しく事業の是非を判断できるように丁寧な説明を行うとともに、事業に対する方針を示すなど、議会で議論できる環境を整えていただきたい。
2. 令和2年度予算審査で指摘されたことをふまえ、令和2年度予算案で添えられた附帯決議(※2)を意識していただきたい。

上記、附帯決議案について、令和5年度富士宮市一般会計予算に付すか否か採決した結果、可否同数となりましたが、議長の裁決により否決されました(附帯決議を付さないことになりました)。

※1…附随的に付けられる意見や要望のこと。実質的には議会の意思表示。ただし、法的拘束力はなく、市は道義的責務を負う。

※2…令和2年度予算審査特別委員会において、(仮称)郷土史博物館の検討事業を進めるに当たり、幅広く意見を取り入れること。社会情勢に柔軟に対応し建設ありきの事業にしないという附帯決議を付した。